



難波っ子

平成29年度6月号
尼崎市立難波小学校
校長 東 政信

一緒にしながら、本気を子どもに伝える！

5月も終わり、いよいよ6月。気温がぐんぐん上がり、まさに初夏を思わすような日々が続いています。そんな中、子どもたちは「なにわフェスティバル」に向けて、計画や準備をすすめています。間もなく梅雨の季節にもなります、体調管理にはくれぐれも気をつけてくださるようお願いいたします。

さて、今更ですが、子どもを育てるといのは、実に難しい面もあり、親の思うようにはなかなか育てないことが多いようです。親の思ってもみないことを言ったり、したりします。また、スマートフォンやゲームの類についても、我が子に「〇〇ちゃんも買ってもらってる。」とか「友達とうまくゆかなくなるから。」と言われると、親としては心が揺らいでしまいます。しかし、ご家庭の考え方で買い与えるのはふさわしくないと判断されたときには『**ならぬものはならぬ**』と親としての意志を貫き、さらにこんな子になってほしいからという期待を伝えることも大事だと思います。

正面切って言うことも大事ですが、時には、子どもと料理などを作るとか、遊ぶとか、映画を見るとか、一緒に何かをすると、子どもと会話が生まれます。その会話の中で、親としての思いを伝えるという方法もあります。

人間は、本能的に協働する動物と言われていています。仲間と一緒に行動することが必要な動物なのです。例えば読書に関して、一緒に本を読む。また、子どもに読み聞かせをしたり、子どもの音読を聞いたりすることも一緒にすることに含まれます。一緒に本を買いに行ったり、一緒に図書館に行って本を借りたりする。読書に関することだけでも様々な「一緒に」があります。この「一緒に」という言葉は、子どもを育てる上で、とても大切な意味を持っている「キーワード」の一つです。一緒にすると子どものいいところも見えてきます。

また、子どもは、どの子も自分を認めてもらおうとサインを送っています。そのサインに応え、その子どもの芽を伸ばすためには、いいところやいい行いをほめるだけではなく、心から喜ぶことであり、良くないところや行いを叱るだけではなく、心から悲しむことが大切と言われます。つまり、子どもが求めているのは、口先だけのほめ言葉ではなく、親が（先生が）本気で喜んでくれるということです。そうすれば草木が太陽の方向へ伸びるように、子どもは喜びの方向へ伸びるものです。つまり、子どもを育てるのに大切なことの1つは、「**大人の本気を子どもに伝える**」ことだということです。決して簡単なことではないですが、ぜひ子どもたちのために実行していきたいものです。